

第3回：シリアにおける農業普及員訓練

今回はシリア農業省農業普及局の紹介をしたが、その農業普及員に対する訓練を管轄しているのが訓練局（Department of Training and Qualification）である。訓練局は、普及員に対する訓練（In-service Training）を担当する訓練部門と、農業高校や農業専門学校の生徒に対する教育部門（Pre-service Training）に大きく分けられる（大学の農学部等における教育は、別省庁の高等教育省の管轄となる）。訓練部門では国レベルの訓練センターとして、農業普及訓練センターが2ヶ所（ともにダマスカス）、農業機械訓練センターが2ヶ所（ダラ及びアレップ）、畜産訓練センターが1ヶ所（ホムス）の5つの訓練センターを持っている。このほか、各県レベルの農業局にも訓練セクションがあり、県内の普及員に対する各種の訓練を行っている。訓練局が関与する2000年の訓練コースは国及び県レベル合わせて計2,155、訓練対象者数は41,220人（内訳：普及員14,350名、農民20,790名、学生6,080名）である。訓練コースのテーマとしては、農業普及全般、農村生活改善、作物栽培、果樹生産、畜産関連、林業、環境保全、灌漑、農業機械、養蜂、コンピュータ等々、多岐にわたっている。各コースの定員は20名程度、期間は1週間から1ヶ月程度である。

このほか普及員訓練に関して、国際機関等が行っているものもある。IFAD（国際農業開発基金）により5つの地域別農業開発プロジェクトが実施されているが、その中でプロジェクト・コンポーネントの一つとして、農業普及活動の強化や普及員や農民を対象とした訓練等も含まれている。またFAOは、1998年から農業政策の立案・分析等に関する組織強化プロジェクトを、1999年末からは普及員訓練のための講師のレベルアップを図るためTOT（Training of Trainers）プロジェクトを実施している。

前回紹介したように、普及局の組織が「形」としては整っているのと同様に、普及員訓練に関しても一見すると普及員に対するさまざまな訓練コースが実施されており、これらが本来期待されるような成果をあげていけば、シリア農業の発展や問題点解決のために多大な効果をもたらすものと思われるが、現実にはそれほどうまく機能していない。それはなぜか？

①「手段」の「目的化」：訓練局が実施している訓練コースでは、コースを実施すること自体が目的となっており、その内容や成果を問うよりも年間開催コースの数や受講者数等の「実績」重視の傾向がある。訓練局長の援助機関に対する要望も、新しい機材や情報を使った新規訓練コース実施に伴う機材供与や金銭的サポートという点が強い。

②インセンティブ：シリアでは各種訓練コースの実施に伴って、「Incentive」と称してコース参加者に日当を配るのが常識化している。このようにお金を渡すことによって訓練コースへの参加を奨励し、訓練の効果をあげるためとされているが、これが「訓練の形骸化」に一層拍車をかけていて、「中身は二の次」になってしまっている。

③ニーズアセスメントの欠如：訓練局では毎年始めに、年間訓練計画をたてて各種コースを実施しているが、去年もやったから今年も、というものが多く、なぜそのコースを実施するかという点についてのニーズ調査がしっかり行われていない。

以上あげたほかにも、訓練コースの内容が実践的でなく、講義室での座学中心であるため技術が身につかない、あるいは、上記の①から③すべての背景ともいえる見映え、外観だけをよく見せようとする「形式主義」の弊害（これは訓練に限らず、シリア全般について言える）等も理由の一つである。



農家に対する訓練



オリーブに関する訓練